

法華經の行者 日 蓮 花 押

末代悪世に法華經を經のごとく信じまいらせ候者をば、法華經の御鏡にはいかんが
 浮かべさせ給ふと拝見つかまつり候へば、過去に十万億の仏を供養せる人なりとたしか
 に釈迦仏の金口の御口より出でさせ給ひて候を、一仏なれば末代の凡夫はうたがいやせ
 んずらんとて、此より東方に、はるかか國をすぎさせ給ひておはします宝浄世界の多宝
 仏、わざわざと行幸ならせ給ひて釈迦仏にをり向かひまいらせて、妙法華經皆是眞実と
 証明せさせ給ひ候き。此の上はなにの不審か残るべき。なれどもなをなを末代の凡夫は
 をぼつかなしとをぼしめしや有りけん、十方の諸仏を召しあつめさせ給ひて、広長舌相
 と申して無量劫よりこのかた永くそらごとなきひろくながく大なる御舌を、須弥山のご
 とく虚空に立てならべ給ひし事は、をびたゞしかりし事なり。かう候へば、末代の凡夫
 の身として法華經の一字二字を信じまいらせ候へば、十方の仏の御舌を持つ物ぞかし。
 いかなる過去の宿習にてかゝる身とは生まるらむと悦びまいらせ候上、經文は過去に
 十万億の仏にあいまいらせて供養をなしまいらせて候ひける者が、法華經計りをば用ひ
 まいらせず候ひけれども、仏くやうの功德莫大なりければ、謗法の罪に依りて貧賤の身
 とは生まれて候へども、又此の經を信ずる人となれりと見へて候。此をば天台の御釈に
 云はく「人の地に倒れて還つて地より起つが如し」等云云。地にたうれたる人はかへり
 て地よりをく。法華經謗法の人には三悪並びに人天の地にはたうれ候へども、かへりて法
 華經の御手にかゝりて仏になるとことわられて候。

しかるにこの上野の七郎次郎は末代の凡夫、武士の家に生まれて悪人とは申すべけれ
 ども心は善人なり。其の故は、日蓮が法門をば上一人より下万民まで信じ給はざる上、
 たまたま信ずる人あれば或は所領或は田畠等にわづらいをなし、結句は命に及ぶ人々も
 あり。信じがたき上、ちゝ・故上野は信じまいらせ候ひぬ。又此の者嫡子となりて、人
 もすゝめぬに心中より信じまいらせて、上下万人に、あるひはいさめ或はをどし候ひつ
 るに、ついに捨つる心なくて候へば、すでに仏になるべしと見へ候へば、天魔・外道が
 病をつけてをどさんと心み候か。命はかぎりある事なり。すこしもをどろく事なかれ。
 又鬼神めらめ此の人をなやますは、劍をさかさまにのむか、又大火をいだくか、三世十
 方の仏の大怨敵となるか。あなかしこあなかしこ。此の人のやまいを忽ちになをして、
 かへりてまぼりとなりて、鬼道の大苦をぬくべきか。其の義なくして現在には頭破七分
 の科に行はれ、後生には大無間地獄に墮つべきか。永くとゞめよ永くとゞめよ。日蓮が
 言をいやしみて後悔あるべし、後悔あるべし。

二月二十八日

伯耆房に下す